

道博協ニュース

第23号

発行所 北海道博物館協会
事務所 札幌市白石区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-(898)-0456

第二十七回北海道博物館大会および

昭和六十三年度北海道博物館協会総会

開催日程（函館市）

第一日（七月十二日）

北海道博物館協会総会

北海道博物館大会他

開会式（開会宣言、主催者挨拶、歓迎の辞、祝辞、開会宣言、オリエンテーション）

63年度北海道博物館協会総会

①昭和62年度事業報告

②昭和62年度決算・監査報告について

③昭和63年度事業計画案

④昭和63年度会計収支予算案について

⑤第28回北海道博物館大会の開催地（帯広）について

⑥その他

特別報告「日本における博物館の現況と課題」日本博物館協会専務理事・毛利正夫

特別講演「函館市在住グロッド・フリリップ神父「博物館の近代化と国際交流」

シンポジウム主題「博物館の国際交流をどうすすめるか」

司会者「北海道博物館協会

顧問・工藤欣弥、助言者

「日ソ極東・北海道博物館交流協会理事長・舟山広治、北方圏センター事務局長・佐藤直一

提言（1）アイヌ民族博物館

「展示会・資料調査を中心とした国際交流事業の経過と課題―北欧移動展を中心―」

1、移動展の名称 2、主催（実行委員会） 3、期間 4、開催地 5、目的 6、内容 7、成果 8、問題点

提言（2）北海道立近代美術館 学芸第一課長・鈴木正実「道立近代美術館の国際交流活動の実践報告と課題」

1、実践報告 (1) 展覧会活動を通しての実践 (2) コレクションとの連動による国際交流展 (3) カナダ・アル

バーク州との交換展の意義

(4) 職員の海外派遣 (5) 資料（情報）交換

2、課題 (1) 海外研修制度の確立 (2) 国際交流範囲の拡大 (3) コレクションの充実による交換展 (4) 海外美術館との相互研修派遣

報告 北海道博物館協会事務局 事務局長・関秀志「北海道における博物館の海外交流と国際化についての現況調査について」

1、道内市町村と外国市町村との姉妹提携 2、外国博物館との姉妹提携 3、外国資料の所蔵 4、外国館園との資料の交換 5、常設展示場の外国資料 6、出版物・文献類の交換 7、外国人の入館者数 8、外国人用パンフレット 9、展示場の外国語表記 10、外国資料による特別展等

11、館園資料の外国展示会への出品 12、外国人講師・外国のテーマによる講演会等 13、館園職員の外国派遣 14、外国人研究者の受け入れ 15、外国人研究者

・館園との共同調査研究 16、外国人入館者に対する特別な配慮 17、外国語で案内解説できる職員 18、今後の海外交流の方策課題 19、国際化に対応した館園運営の具体化 20、海外交流・国際化推進のための課題

学芸職員部会総会

第二日（七月十三日）

史跡・施設見学

・トラピスト修道院・北海道立函館美術館・函館北洋資料館・市立函館博物館五稜郭分館・五稜郭タワー史蹟館・函館公園・市立函館博物館本館・青函トンネル

開通記念博覧会

解散（一四時の予定）

日本博物館協会

第33回全国大会の開催

日本博物館協会第33回全国大会が下記の日程で開催が予定されています。

期日・11月10日～11日

会場・栃木県宇都宮市

大会テーマ・未定

昭和63年度

アイヌ文化財専門職員等研修会のお知らせ

道博協では、北海道教育委員会の委託事業として左記のとおりアイヌ文化財専門職員等研修会を開催することになりました。

この研修会は、昭和61、62年度に北海道教育委員会の補助事業として、白老民族文化伝承保存財団および北海道ウタリ協会が主催し、当協会が共催団体として協力した「アイヌ民族文化財学芸職員等研修会」略称、アイヌ文化セミナーが発展し、北海道教育委員会の継続事業として実施されることになったものです。

会員の皆さまにおかれましては、大変ご多忙とは存じますが、お繰合せの上ご参加下さいますようお願いいたします。

記

◆開催要項◆

趣旨 北海道の歴史と文化

参加人員 八〇〜一〇〇名程

度

の理解に欠かすことのできないアイヌ文化を正しく認識し伝承するため、アイヌ文化財業務に携わる専門職員等の資質向上と養成を図る。

受講料 無料

受講申込 別紙申込書に記入のうえ、7月20日まで北海道博物館協会に送付すること。

収集と整理について 静内町アイヌ民俗資料館学芸員 古原敏弘 総括・閉会式 10・40〜11・30

主催 北海道教育委員会

主 管 北海道博物館協会

第2日目 8月4日(木) 講演 9・00〜10・30 第一講 「東京国立博物館蔵のアイヌ民族資料について」東京国立博物館資料第3研究室長 佐々木利和

館園動向

後援 札幌市教育委員会

宿泊 幹旋施設・会場に同じ(希望者は直接ホテルに申込みのこと)

第二講 10・40〜12・10 「奥羽社会と蝦夷」宮城学院女子大学助教授 菊池勇夫

◆幌延町郷土資料展示室オープン 昭和63年5月、天塩郡幌延町字幌延一〇二一の農村環境改善センターの中に開館しました。自然風土と先人の歩みを基本テーマとし、「ほろのべの歩みガイドウォール」

会場 ホテル札幌会館

日程表

第一日目 8月3日(水) 受付 9・00〜9・30 開会式 9・30〜10・30 講演 10・30〜12・00 「アイヌ文化の諸問題」早稲田大学教授 桜井清彦

「広い大地と豊かな自然―サロベツ原野」地質と先史」拓かれた大地―先人の開拓の歴史と足跡」などのコーナーで構成されています。鉄骨造平家建、延面積三三六㎡、入館料 一般二〇〇円、小中高生一〇〇円 開館時間 9〜17時 休館日 月曜・祝日・年末年始 電話 〇一六三二一五―二九七七。

期日 昭和63年8月3日(水) 5日(金)

第二日目 8月4日(木) 昼食 一食一、〇〇〇円 (申込書に希望の有無を明記のこと)

第三講 12・50〜14・50 「現代に生かすアイヌ民具―女の生活の知恵―」アイヌ文化伝承の会・手づくりウタリ主宰 小川早苗

「北大農学部附属博物館のアイヌ民族資料」(展示場見学)北海道大学農学部附属博物館 主任 難波琢雄

会場 札幌市北区北17条西4丁目(電話〇一一一七二六一―三四一)

移動 14・50〜15・30 第四講 15・30〜17・00 「北大農学部附属博物館のアイヌ民族資料」(展示場見学)北海道大学農学部附属博物館 主任 難波琢雄

第三日 8月5日(金) 第一講 9・00〜10・30 「アイヌ民族資料の収

集と整理について 静内町アイヌ民俗資料館学芸員 古原敏弘 総括・閉会式 10・40〜11・30

参加対象 博物館・資料館等の学芸職員、教育委員会等の文化行政担当職員、アイヌ文化に係わる教育関係職員、研究者、その他一般道民。

昼食 12・00〜13・00 第一講 13・00〜15・00 「現代のアイヌ問題」北海道ウタリ協会副理事長 貝沢 正

第二講 15・00〜17・00 「松浦武四郎日誌とア

アイヌ民族資料の収

者、その他一般道民。

第二講 15・00〜17・00 「松浦武四郎日誌とア

アイヌ民族資料の収

集と整理について 静内町アイヌ民俗資料館学芸員 古原敏弘 総括・閉会式 10・40〜11・30

参加人員 八〇〜一〇〇名程

第二講 15・00〜17・00 「松浦武四郎日誌とア

アイヌ民族資料の収

集と整理について 静内町アイヌ民俗資料館学芸員 古原敏弘 総括・閉会式 10・40〜11・30

アメリカの博物館—講演要旨

コネチカット大学教授

ジーン・キース・ベネット

この講演は、昭和62年11月27日、北網圏北見文化センターで開催された網走管内博物館連絡協議会の研修会で行な

われました。今回、ベネット教授と網博協の承諾を得、久保勝範氏（北網圏北見文化センター指導係長）の協力によりその要旨を掲載することにしました。関係者に謝意を表します（道博協事務局）。



(講演中のベネット教授)

一、博物館における私の経験について

① ニューヨーク市のブルックリン博物館の古代美術部門で学芸員補および調査協力員として五年間勤務した。この館は世界各国から収集した各時代の美術品や工芸品を多数収蔵する大規模な博物館で、ここでの勤務中に素晴らしいエジプト学図書館で調査を続けた。

② ハートフォード市のワッツワース・アセニウム博物館でも古代美術相談学芸員として勤務した。この館は、中規模館で世界的なコレクションを収蔵している。西欧以外のコレクションは少なく、現代以外（中世及びそれ以後）の美術・工芸品である。この館は、アメリカ合衆国で最初の公的援助協力による博物館で、一九世紀初期に公的条例に基づき開館した。私がこの館とかかわったのは約一五年

間で、その間に学生を使って考古学に関する特別展一回と古代西欧美術コレクションの常設展示を一回担当した。

③ コネチカット大学ウイリアム・ベントン美術館では古代美術の客員教授として勤務した。この館は大学構内にある小さな美術館で七人の専門職員がいる。アメリカの絵画や版画など特定の分野の資料収集に重点が置かれている。一七一年間に、私は入門講座でこれらの資料を使用し、古代西洋美術の特別展を二度準備した。

④ ベントン美術館とワッツワース・アセニウムでは、コネチカット大学学部学生に博物館研修プログラムを教えた。アメリカ・ヨーロッパ・中近東の多くの博物館で、二五年間専門的調査を行っている。

二、博物館の機能

① コレクションの維持管理

（コレクションの中の資料の受領・記録・登録・保管・補修）

② コレクションの解説（学術的・一般的、研究学生・一般向け）と資料の分析、展示と配置（永久コレクション・寄託資料・収蔵資料）

③ 教育と社会連携（博物館内では、学校・一般人・専門家に、社会では博物館外の延長として、野外活動としては発掘調査・復元・相談サービス、出版物など）

④ 資料の取得とコレクションの増大（短期・長期の寄託、購入と交換、遺産・寄贈・その他、野外調査・発掘調査など）

三、学芸員資質—コレクションの基本的配慮

「キュレーター」はラテン語の「キュレーター」に即ち「に注意する」に由来する。

① 学芸員が選ばれるべき要件

○ 専門的訓練と経験によるコレクションに関する適切な専門的見識

○ コレクションの全体的配慮に関する能力

○ 多くの小施設においては、学芸員はコレクションへの配慮と同様に信条（方針）および館長と同等の責任を持つ

② 学芸的責任

○ コレクションの物理的維持管理と記録（登録）

○ コレクションの品質の維持管理（注1）

○ コレクションの解説
展示品（恒久コレクションの常設展示、恒久コレクションの一時展示）新着資料・一種類の資料又は一時期の美術・歴史、寄託・借用展示
○ 学芸員による借り企画されたものその他館からの借用資料を含む、巡回展又は他館が企画した寄託・借用展示
○ 例えは北網圏北見文化センターの「ヨーロッパ近代彫刻の巨匠たち展」、函館で開催されたオランダ・ライ

デンの古代王室博物館の「エジプト美術展」など）（注2）

○刊行物および関連するコミュニケーション
展示品のラベルと解説パネル、目録（チェックリスト）、展示品図録、パンフレットと紀要（定期刊行の紀要は来館者・学芸員・他館職員の質問に答えることができる）

○口頭によるコミュニケーション
展示場又は講堂における展示品についての講義、常勤職員以外の講師のトレーニング、観覧者が持ちあるく録音カセット（注3）

四、社会連携

①会員制度（利用者の組織、時として財政援助の源泉であり、利用者と一般公衆に博物館のアイデンティティの認識を与える。ある場合には、公衆のグループが資料取得や

他の活動のスポンサーとなる）

②教育普及（公立・私立学校訪問、あらゆる年齢の生徒のための屋内クラス（注4）、「学芸員感覚」により取上げられた諸活動、講義シリーズ・コンサートシリーズ、講話・専門家または訓練されたボランティアによる展示室講義）

③ボランティア活動（博物館の多くの援助の源泉、とくに小さな財源での各種イベントの開催、来館者、特に子供たちと一般公衆への講話と講義、各種の部門における事務その他の仕事）

④来館者委員会（各種部門にアドバイスする非専門家たち、時にはコレクションの増強や事業の推進のための財政的、実践的支援の源泉となる）
⑤売店（時には博物館の良好な財政収入源、ニューヨークのメトロポリタン美術館やボストン美術館

のような大規模館では、国のあらゆる分野の図録販売が盛んである。これらの売店は商業的企業として運営され、他企業と同じく課税される。収益は連邦政府・州・市の税金とした後、博物館のニーズに基づき、行政官により館の使用のために戻される）

⑥講義やコンサート・シリーズ、講座（一般的には学芸的又は他の部門の調整のもとに企画されたもの）

⑦財源となる社会的イベント（ダンス会、パーティー、ある博物館では建物の一部分を私的イベントに貸出す。ただし、これはコレクションに危険が及ばない場所のみに制限すべきである）

⑧公共連携（各種の方法による博物館でのイベントについての広報活動、新聞・ポスター・ラジオ・TV放送、学校訪問など）

（注）
(1)「取得」『博物館ニュース』V. 65, no. 3, pp. 44 ff., アメリカ博物館協会刊）参照

(2)「借用展示品の問題点と楽しみ」『博物館ニュース』V. 65, no. 3, pp. 51 ff.・63 ff.）参照

(3)「聴覚II音響案内の広告」『博物館ニュース』ビデオ参照

(4)「博物館教育の倫理学について」『博物館ニュース』V. 65, no. 6, pp. 13 ff., pp. 46）参照

寄贈 図 書

第35回全国博物館大会報告書—昭和62年度—博物館を巡る環境と博物館が作り出す環境（財）日本博物館協会、文化項目分類、国立民族博物館（63・3・31）、季刊ミュージアム・データ（株）丹青綜合研究所（63・4・30）、土別市立博物館報告第6号（63・3・31）、上士幌町ひがし大雪博物館研究報告第10号、農業博物館だよりNo.43（63・2・25）、三笠市立博物館年報第8号（63・2・25）、生涯教育の推進方策に関する研究

館 園 紹 介

◆建設すむ

厚岸町海事記念館

昭和63年10月の開館をめぐり、厚岸町港町50-1に建設中の同館は鉄筋コンクリート造二階建て、展示面積は約一、五〇〇㎡、一階は海事の歴史、二階はプラネタリウムと海洋の科学が中心テーマ、入館料は無料の予定で、電話は〇一五三一五二一四〇四〇オープンしましたら、本紙でも紹介します。

北海道立教育研究所（63・3・20）、北海道新教育長期総合計画 北海道教育委員会（63・3）、博物館のボランティア実態調査に関する報告書 昭和62年度（財）日本博物館協会、帯広百年記念館紀要第6号（63・3・25）、創立十周年記念誌（財）北海道社会教育協会（63・3・25）、クオークNo.73講談社（63・7・1）

館 園 紹 介

札幌芸術の森



札幌芸術の森は、昭和六十二年七月、豊かな自然を残す札幌市南区の台地に開園いたしました。この芸術の森は、二十一世紀に向けた札幌のシンボルとして、芸術家あるいは愛好家による芸術活動の高まりと、多くの一般市民の参加による拡がりを目的とした総合施設であります。位置的には都心部より車で約三十分の近距離でありながら、自然景観を楽しめ、かつ芸術環境を満喫できる施設として全国的に注目されております。

当園は、野外美術館を中心に、音楽・舞台芸術の諸施設、北の工芸を発表・紹介する工芸館、その他各種工房・アートリキ群と有島武郎旧邸で構成されており、芸術家と市民の交流の場としての機能も果たしつつあります。二十九ヘクタール余の広大な敷地に、芸術諸分野の「制作・研修」、「情報・交流」、「鑑賞・発表」の三大機能を核として、他に類例をみない大規模施設として三期十五ヶ年の計画で昭和七十四年の完成を目指して整備を進めております。

「芸術の森野外美術館」は十一ヘクタールの敷地内に国内第一級の彫刻家による五十点と、ノルウェーのビーゲランの五点の彫刻作品を常設展示しております。特徴としては、作家自身が現地を訪問し、そこで構想を練った言わば現地制作主義により制作された作品を中心に、入館者が実際に作品に手を触れて鑑賞できるという非常に贅沢な見方ができるところにあります。また、「絵画アトリエ」二棟は今後各期毎に展示場を拡張し、十分な環境を整備しながら、作品の充実をはかります。また、「彫刻アトリエ」も専門家に人気が高く利用率も好調であります。このアトリエは宿



泊が可能であり、長期間滞在しての制作もできます。この他、園内に移築復元された「有島武郎旧邸」は閑静な木立ちの中、建設当時の姿を偲ばせており、有島武郎が自ら設計した大正の当時としてはモダンな住宅は、建築史的にも興味深いものとなっております。邸内は当時の姿をそのままに有島の資料を展示残すなか、研修室は各種の文学サークル等に利用されております。

このように札幌芸術の森は市民参加型の芸術・文化の総合施設として、ただ鑑賞するだけの美術館ではなく、体験学習、生涯教育の場として、常に活動する施設の運営を目指しております。

《札幌芸術の森案内》
所在地・札幌市南区常盤七十五番地
電話番号・〇一一(五九二)五一一一
開園時間・十時～十七時
但し、六～八月は、十八時まで
休園日・無休(四月二十九日～十一月三日)
その他の時期は、月曜休園
入園料・無料
野外美術館のみ 一般五〇〇円、小中学生一〇〇円
駐車料・普通車三〇〇円
交通案内・地下鉄南北線真駒内駅より中央バス(南一〇一、一〇二)、芸術の森前下車
(財団法人札幌芸術の森 常務理事 側見春夫)

館 園 紹 介

大雪山国立公園

層雲峡博物館

昭和35年6月15日、大雪山国立公園の自然を科学的に正しく紹介するために開館された。

全館にエゾマツ、トドマツの丸太が造形的に配置され、森林のなかを歩くようである。はじめに、大雪山の地形と地質が、地形模型、断面図、岩石標本、航空撮影による集成写真、また地質図と植生図との関連などによって紹介されている。植物は代表的な植生と土壌断面との関連、高山植物や代表的な材幹標本、また腐朽菌の子実と腐朽材との関連などが紹介されている。動物は、熊から小型哺乳類、鳥類、昆虫類などの標本が展示されており、特に大雪山から発見された天然記念物種の高山蝶は有名である。大雪山の雪の科学的な解説があり、その代表的な雪の結晶が観察できる。当館は大雪山国立公園の中心地であり、その自然の

景観とともに公園内の各施設が模型や写真によって紹介されている。昭和29年に石狩川上流地を襲った台風15号の被害は未曾有のもので、その原始林―台風被害―風倒木の整理―森林再成の様子が詳しい4部作のジオラマで紹介され

ている。その他参考資料として、北海道電力、道立林産試験場、山陽国策パルプ棟の提供による水資源や木材利用などの様子が興味深く紹介されている。階上の特設展示室には、日本を代表する写真家、田淵行男氏撮影による大雪山産の高山蝶全5種の生態パネル、岩谷朝吉氏寄贈による貴重な考古資料などが展示されている。

当館は以上のように、大雪山国立公園の自然の全貌が短時間で理解できるようにコンパクトにまとめられた自然史系の博物館であるが、近い将来には環境庁のビジターセンターと併設して、現在の多様化した社会にも一層の対応ができるような、さらに内容の充実した施設に新設される計画がもちあがっている。

〈大雪山国立公園層雲峡博物館案内〉

所在地・上川郡上川町層雲峡
電話番号・〇一六五八一五一

三四二七

開館時間・夏季／五〜十月は
九時から一九時 冬季／十一

月〜四月は九時から一七時
開館日・夏期間無休、冬期間
毎週火曜日休館

入館料金・一般大人二〇〇円
(二五〇円) 中高生一五〇
円(一〇〇円) 小学生一〇〇
円(五〇円) ()内は団体
二〇名以上

交通案内・JR上川駅、道北
バス層雲峡温泉終点下車徒
歩三分

(大雪山国立公園層雲峡博物館)

館長 保田信紀

館 園 紹 介

小樽市

青少年科学技術館

小樽市青少年科学技術館は、昭和38年8月2日、北海道内にあり前後して開館した室蘭市・旭川市・釧路市・帯広市の五科学館の一つとして社会教育の分野から青少年に科学技術に関する思想の啓発・普及を目的とした当地域の広域施設として開館した。

開館以来小樽市青少年科学技術館においては、一般展示資料公開・プラネタリウムの投影・青少年及び一般を対象

とした講座による科学技術に関する啓蒙・教育普及活動を三つの柱として活動してきた。開館当初の構想の中に、常時青少年がここを利用し科学に関する興味とその上に発展する科学技術の向上につな



ることを目的とした、小学5年生から中学、更には高校生をも対象とした実験実習講座を通常開設し、多くの終了生を世に送り出したことは当館の特色でもあったし、現在も続いており特筆するに足るものと考えている。

展示資料については、当初から日常生活の中において親しみ易くしかも見て触れることにより興味をおこし、自分もやってみようと思わせるような手作り展示を主として公開し、低年齢の者にも遊びの中に科学に引き込まれ科学館に足が向くような物を考慮してきた。

プラネタリウムについては開館当初より設置され日中でも星空を見ながら神話の世界から、天体の運動にいたる学習まで出来るとあって賑わいをみせ、現在では補助投影機の工夫による効果、マルチスライド投影利用のスカイライオンを変化させて他地方の雰囲気やだす等に加えプラネタリウムコンサート等新しい試みもなされている。

当館は、科学館という性格上、最近の目まぐるしい程の科学技術の進歩に対応し、しかも今後は青少年のみならず生涯学習についても市民のニーズにこたえるべく、その基盤づくりに次代を担う青少年の基礎教育と継続した積み上げの必要が痛感させられている。

ニューメディアを利用してダイレクトに情報を提供する情報のネットワーク（フアクシミリやパソコン通信）をつくる事や、又人々の志向が学習やレクリエーションよりもレジャー型に変わりつつあることも考慮し教育機関といえどもレジャー的要素が入った中にも本来の姿を失わない科学館の運営がとめられてきている。

（小樽市青少年科学技術館）
館長 佐々木直人

人（小・中学生）入館使用料 50円
プラネタリウム観覧 50円
大人（高校生以上） 入館使用料100円
プラネタリウム観覧150円
団体20人以上2割引
教育関係減免制度あり（事前申請審査後許可）

休館日 月曜日、祝日、年末
月29日（年始1月3日）
公開時間及び利用料金 午前9時30分～午後4時

館 園 紹 介

札幌市豊平川

さけ科学館

マンモス都市札幌をつらぬいて流れる豊平川に、環境浄化のシンボルであるサケを呼び戻そうとの市民の切なる声に関係諸機関・行政も動き、稚魚の大規模放流の幕開けを見たのが昭和54年の春でした。

そして、サケ公園構想など諸々の検討を経て、昭和59年ついに当館の建設が実現し、秋10月6日に開館の運びとなつたわけだ。

総工費12億円弱、藻岩山に臨む道立真駒内公園の中にあたり、真駒内川と豊平川本流のせせらぎにはさまれた都会の中

の別天地に設けられています。入館者は開館満3年で50万人を越えました。

主要な建物は、展示ホール、飼育展示室を包含する本館と体験学習を中心とした普及活動をはかる別館「さかな館」の2棟です。共に平屋ですが本館は地下観察室という一部地階を含み、飼育池内の魚を横から観るようになっています。展示ホールには、サケ科魚類を中心としたパネル展示（分類・生態・人工増殖・利用漁業・豊平川の水利と生物）ビデオコーナー、解説コーナー（図書閲覧コーナーを含む）親サケの模型と標本などがあります。

展示ホールから地下観察室に至る部分が当館として飼育の枢要部で、展示候補魚、卵と稚魚の養成をしています。ここは観覧にも供しているため、飼育展示室と名付けています。サケという秋以外には実物にお目にかかれな

いと思つている方も多いため、飼育展示中のサケ科魚類は18種類に及び、周年の賑わいをみせております。

参考に本館の外観にちよつと触れますと、レンガ色と白を基調とした側壁とアズキ色の三角屋根から構成されています。正面からみますとサケ



のつがいが表現されていることがわかりますし、その中心に川の流れを題材にしたステンドグラスをあしらっています。

別館「さかな館」は「豊平川の魚たち展」を常設しており、展示魚の中にはオスが子育てをすることで有名なイトヨや、子供に喜ばれるスジエビ、ザリガニなどもおり、年間に展示している魚種(甲殻類含む)は約30種に及んでいます。サケ関係の人氣が薄れかけるシーズンは、人氣の保持に役立っています。

年間の行事や体験学習としては、サケ稚魚の放流(春)、林間学校(夏)、サケ採卵実習(秋)などを毎年続けています。

また秋には屋外観察池においてサケ親魚の産卵行動を見ることが出来ます。

最後に、当館の使命としてサケの生活史をつうじて、生命の尊さや自然の仕組みを市民の方々に理解していただきゆくゆくは人間社会の健全な発展や環境浄化に役立つことを願っています。

(札幌市豊平川さけ科学館
館長 内山正昭)

所在地・札幌市南区真駒内北
海立立真駒内公園内
電話番号・〇一一(五八二)七五五五
開館時間・9時30分～16時30分
休日・月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)と年末年始
観覧料・無料
交通案内・地下鉄「真駒内」から徒歩18分、市営バス真駒内屋外競技場前下車4分
じょうてつバス五輪通り下車6分、近くに駐車場有ります。

事務局日誌

3・25 「道博協ニュース」第22号発行

3・29 昭和62年度第4回役員会(札幌市スノー会館、役員12名、事務局3名出席)

4・8 事務局会議(新年度事業について)

4・14 アイヌ文化セミナー開催につき那須和雄市立旭川郷土館長と協議

4・28～29 第27回北海道博物館大会開催につき現地協議と協力依頼(市立函館博物館・函館市教育委員会・啄木亭など)

5・6 道教育長に大会補助金交付申請書提出、昭和62年度事業会計監査実施(岩内町郷土館)

5・10 事務局会議(大会準備について)

5・18 第27回大会諸依頼状(共催・後援・特別報告・講演・祝辞・実行委員・事務局員・施設見学・シンポジウム司会・助言・提言等)

「第26回北海道博物館大会報告書」、「道博協ニュース」第20号原稿依頼状等発送

5・19 アイヌ文化財専門職員等研修会実施準備着手

5・20 函館市長に大会開催地負担金申請書提出

5・23 昭和63年度会費請求書、「北海道博物館園の海外交流と国際化についての現状調査」用紙、「博物館等施設現況調査票」、第27回大会案内状発送

5・24 「北海道社会教育関係団体現況報告書」提出

5・25 第一回役員会開催案内状発送

5・27 北海道社会教育協会第一回評議員会(道庁別館、渡辺会長出席)

6・7 アイヌ文化財専門職員等研修会実行委員会開催(札幌市・安田火災北海道ビル)

6・13 北海道社会教育関係団体連絡会議(札幌市・道社会福祉総合センター、関出席)

6・15 アイヌ文化財研修会の件で道教委文化課と協議

6・17 函館市議会議長に大会祝辞依頼状発送、アイヌ文化財研修会後援・講師・施設見学等依頼状発送

6・23 日博協支部長会議(東京・尚友会館、渡辺支部長出席)

6・30 「昭和63年度アイヌ文化財専門職員等研修会」開催要項・申込書等発送

新入会員

札幌芸術の森(札幌市南区常盤75番地)、小樽市青少年科学技術館(小樽市緑1丁目9番1号)、三松正夫記念館(有珠郡壮瞥町滝之町18-12二風谷アイヌ文化資料館(沙流郡平取町二風谷)

(個人会員)
寺崎康史(瀬棚郡今金町今金 今金町教育委員会)

退会会員

(団体会員)
留辺薬町山の水族館・郷土館

(賛助会員)
株大丸藤井

お知らせ

・北海道博物館協会事務局のメンバーは、北海道開拓記念館の人事異動にともなう5月1日より次のとおりとなりました。事務局長 関秀志
事務局次長 山田健
庶務・会計担当 矢島春
事業担当 野村崇

・次回の道博協ニュースの発行は9月を予定しています。

(団体会員)